

# 一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会



一般社団法人  
日本ゴルフツーリズム推進協会  
Japan Golf Tourism Association(JGTA)

## 平成 27 年度 事業報告書

## 1. はじめに

2015年4月に法人登記を終えた一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会（略称JGTA）では、同年6月の総会により事業活動を開始しました。設立と同時に当協会の会員を募り、理事及び評議員の関係企業に法人会員（一般企業）としてご入会を頂くとともに、公益法人として一般社団法人静岡県ゴルフ場協会、自治体会員として三重県のご入会も頂きました。今年度末時点での会員は、法人会員（一般企業）19法人、同（公益法人）2法人、自治体会員1県、賛助会員（一般企業）6社、同（個人会員）は6名となっています。

2015年6月18日に開催されたJGTA設立総会において、本年度の事業計画案書においてJGTAの事業のあり方として次のように明記しました。

「JGTAは、ゴルフツーリズムに関する総合的な団体（ナショナルセンター）として、全国的、総合的な会員組織を活かし、地域（自治体等）とゴルフ業界、観光産業界を総合的にとりまとめる役割、これからゴルフツーリズムやゴルフを核とした街づくりに取り組もうとする市町村や各種組織・団体等に対し、JGTAがもつノウハウを活用し、また幅広い会員の協力を得て行うコンサルタント的な役割、そして我が国を代表して、海外のゴルフツーリズムに関する組織・団体と交流し、インバウンドの拡大につなげていく役割を果たしていく。そのため、関係官庁、自治体、日本政府観光局、観光関連事業者と積極的に連携協力し、円滑かつ効率的にゴルフ観光振興に取り組む体制づくりに努める。」

これに対し本年度の事業における成果として以下の取り組みを上げたいと思います。

- ① 三重県が自治体としてJGTAの会員となったこと。また、JGTA主催セミナーに多くの自治体が参加するようになったこと。
- ② 静岡県及び静岡県ゴルフ場協会主催のゴルフインバウンドセミナーでコンサルティングを行ったこと。
- ③ 一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会との協力関係が構築できしたこと。
- ④ JSTA（一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構）のゴルフ部門としての位置づけが明確になったこと。

しかしながら、会員数は計画数に届かず、また、会員向けのサービスも不十分であったことを含め、課題を残す一年となりましたが、初年度の経験を活かしつつ、次年度は会員の満足度向上を目指す所存です。日本のゴルフツーリズムの発展に向けて、今後も会員の皆様からのさらなるご支援・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会 代表理事  
白石武博

## 2. 事業一覧

月	日	活動	場所
6	18	JGTA 設立社員総会及び第1回 JGTA 主催セミナー開催	アットビジネスセンター東京駅（京橋）
7	9	三重県主催ゴルフツーリズムセミナーに参加	三重県総合文化センター文化会館
	28	SPORTEC2015 にブース出展	東京ビッグサイト
9	26	第1回理事会	JGTA 事務局及び WEB 会議システム
11	9	第2回理事会	オフィス東京会議室
	9	一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会と勉強会開催	日本ゴルフ場経営者協会会議室
12	27	第3回理事会	オフィス東京会議室及び WEB 会議システム
	2	静岡県、静岡県ゴルフ場協会主催セミナーに参加	プラザヴェルデ（沼津）
1	25	第1回 JGTA 主催会員勉強会開催	オフィス東京会議室
2	19	第2回 JGTA 主催セミナー開催（ゴルフフェア期間中）	東京ビッグサイト

### ◆理事・監事・評議員による活動

①日本政府観光局（JNTO）へのヒアリング及び活動報告

【コンベンション誘致】鈴木部長・川崎様・塩田様・伊与田様

【プロモーション部】亀山部長

【地域競争室】伊藤室長

②国土交通省観光庁への事業説明

③近畿運輸局 国際観光企画部へ、ゴルフツーリズムに関する情報提供及びJGTA活動報告

④中部運輸局 国際観光企画部へ、ゴルフツーリズムに関する情報提供及びJGTA活動報告

⑤北海道運輸局 国際観光企画へ、ゴルフツーリズムに関する情報提供及びJGTA活動報告

⑥一般社団法人ゴルフ場経営者協会との連携

⑦2016年ゴルフ新年会への参加

⑧他団体主催セミナー等での講演

- ・2016年1月29日 JSTA主催第四回スポーツツーリズムコンベンションでの講演
- ・2016年2月29日 やまとごころフォーラムにて講演
- ・2016年3月28日 兵庫県加東市支配人会視察研修ツアーにて講演。

## JGTA ホームページの制作

日本ゴルフツーリズム推進協会は、ゴルフツーリズムを通じて日本の魅力を国内外に発信します。

日本ゴルフツーリズム推進協会  
Japan Golf Tourism Association(JGTA)



ホーム 協会について 入会の案内 お問い合わせ 会員ページ

TOPICS

2016年1月23日 東二国ゴルフツーリズムセミナー開催のご案内  
2015年6月16日 令和13日 第一回JGTA社員総会・設立記念セミナー開催  
2013年4月27日 アジアゴルフツーリズムコンベンション(AGTC)2015  
2015年2月13日 ハヤシングルフフェアにてゴルフツーリズムセミナーを開催

NEW REPORTS

海外から生見される日本のゴルフツーリズム -AGTC2015 ジャカルタ取材特集 提供:オカヒラ株式会社



日本ゴルフツーリズムの可能性 - IACTO AGTC2014取材映像はこちら

Copyright © 2012 - 総務課主人株式会社 All Rights Reserved.



ホーム 協会について 入会の案内 お問い合わせ 会員ページ

一般社団法人 日本ゴルフツーリズム推進協会  
Japan Golf Tourism Association(JGTA)



What is the JGTA?

The Japan Golf Tourism Association (JGTA) started as a general incorporated association in April 2015. In keeping with the "Sports Tourism Promotion Basic Policy" compiled by the Japan Tourism Agency in June 2011, JGTA is working actively as an organization to promote all-Japan framework of "golf tourism" that treats golf as a tourism resource.

Using golf as the central component of tourist content for expanding the number of foreign inbound and domestic tourists, turning external demand into domestic demand, and fluidizing internal demand, JGTA aims to provide the network and know-how that will be widely used by the many people involved in golf and tourism for regional vitalization, in order to strive to build a tourist community utilizing golf, and to commercialize travel in way that makes effective use of regional resources, etc.

JGTA Activities

- Building a nationwide network of regions, etc. engaged in golf tourism
- Supporting the formation of regional platforms relating to golf tourism
- Cooperating, assisting, giving recommendations relating to attracting and holding international golf tournaments, etc.
- Assisting with the distribution and creation of travel products involving golf
- Setting up the environment and making recommendations for enhancing convenience of golf activities at travel destinations
- Developing golf tourism human resources and holding training workshops
- Collecting golf tourism information in Japan, and disseminating information inside and outside Japan, holding lectures and events
- Conducting research surveys relating to promoting golf tourism, sponsoring various awards, honors, and events
- Conducting cultural exchanges and observational tours with overseas golf tourism organizations

Contact Us

## 2015 年度社員総会及び第一回設立記念セミナースケジュール

2015 年 5 月 18 日  
JGTA 事務局

### ①実施要項

開催候補日：2015 年 6 月 18 日（木）  
会場 : アットビジネスセンター東京駅

### ②当日スケジュール

15:00～15:30 2015 年度社員総会（14:30～受付）  
アットビジネスセンター東京駅 302 号室（定員：100 名）  
16:00～18:00 第一回セミナー（15:30～受付）

### ③社員総会議題

1. 理事承認
2. 2015 年度事業計画承認
3. 2015 年度予算承認

### ④セミナースケジュール（16:00 スタート）

【2015 年度第一回 JGTA セミナー概要】第一回のテーマは「インバウンド」です。  
日時：2015 年 6 月 18 日（木）16:00～18:00

内容：

- 開会挨拶 白石武博代表理事
- 祝辞(予定) 国土交通省観光地域振興課地域競争強化支援室長 伊藤 嘉規様  
日本政府観光局コンベンション誘致部部長 鈴木 克明様
- AGTC (Asia Golf Tourism Convention) 2015 のご報告
- 事例紹介
  1. 「ザ・ノースカントリークラブの取組みと現状」  
ザ・ノースカントリークラブ代表取締役社長・総支配人 太田康裕氏
  2. 「野沢温泉スキー場の取組みと現状」  
日本スノースポーツ活性化協議会設立準備委員会事務局長 河野博明氏
- 質疑応答

# 日本ゴルフツーリズム推進協会が 「理事会及び第1回社員総会、設立記念セミナー」 を開催



「目標はゴルフで交流人口の拡大です」  
(会長・代表幹事の白石武博氏)

部署別役職	役名	日本スノースポーツ振興会会長
会員登録部	会員登録担当者	野沢高志
販路開拓部	新規販路開拓担当者	白石武博
情報部	一般情報担当者・会員登録担当者	高橋尚子
監修部	監修担当者	高橋尚子
研究部	研究担当者	河野博明
企画部	企画担当者	太田康裕
PR部	PR担当者	西川泰輔
会員登録部	会員登録担当者	西川泰輔
販路開拓部	新規販路開拓担当者	白石武博
情報部	一般情報担当者	太田康裕
監修部	監修担当者	太田康裕
研究部	研究担当者	高橋尚子
企画部	企画担当者	高橋尚子
PR部	PR担当者	西川泰輔
会員登録部	会員登録担当者	西川泰輔
販路開拓部	新規販路開拓担当者	白石武博
情報部	一般情報担当者	太田康裕
監修部	監修担当者	太田康裕
研究部	研究担当者	高橋尚子
企画部	企画担当者	西川泰輔
PR部	PR担当者	太田康裕

理事の高橋尚子氏

司会進行を務めた、  
事務局長の開波幸一氏



「観光とゴルフが融合できたら、もっと幅が広がります」(ザ・ノースGCの太田康裕氏)



日本スノースポーツ活性化協議会の  
河野博明氏

同協会の役員、事務局名簿

そして社員懇親会後の設立記念セミナーでは、「インバウンド」がテーマのものと、「ザ・ノースカントリー・ゴルフクラブの取り組みと現状」と題した事例紹介が、同GCの太田康裕代表取締役総支配人から行われた。もう一つの事例紹介は、日本スノースポーツ活性化協議会設立準備委員会の河野博明事務局長による「野沢温泉スキー場の取り組みと現状」であり、ここではスキー産業の裏返とその対策についての詳しい発表が行われた。終了後には懇親会も開催されたなど、終日盛況であった。

今年の4月1日に発足した、一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会(JGTT)会長・白石武博会長は、6月18日にアクトビジネスセンター東京駅で「2015年度第一回社員総会・設立記念セミナー」を開催した。理事会が開かれ、その後行われた社員総会では、同協会の白石会長から「組織設立の経過報告」と「平成27年度事業計画案・予算案」「監事選任について」の説明があった。事業計画案の主な内容は、方針や事業のあり方の他、平成27年度事業計画(ゴルフトーリズムに取り組む地域等の全国的なネットワーク構築、ゴルフトーリズムに関する地域ブランドフォームの形成支援、ゴルフを活用した旅行商品の普及及び造成の支援、国内ゴルフ観光情報の集約等)であつた。

# 交流人口の拡大を

## ゴルフ含めた観光推進

J G T A



白石武博会長

流人口を増やすことで日本経済の発展に寄与したい」と述べた。

総会では白石会長が設立までの経過を報告した

あと、15年度事業計画案、

同予算案、監事選任につ

いて審議、いずれも原案通り可決承認した。

今年度の事業計画は全

国的なネットワークに關

する。会員対象のセミ

ナー開催と地域ごとのゴ

ルフツーリズム関連団体

を行なう。海外ゴルフツー

リズム組織の交流は、國

日本ゴルフツーリズム  
推進協会（JGTA、会  
長＝白石武博・カヌチャ  
ベリソート社長）が4  
月1日に発足し、第一回  
の総会が6月18日に東京  
都内で開かれた。

あいさつに立った白石  
インバウンドに対応し交  
換していく。

地域プラットフォーム  
の形成支援は、形成支援  
のための事例収集と分  
析、形成に資する講演会、  
勉強会を開く。ゴルフを  
活用した旅行商品の普  
及、造成支援は、モデル  
コースの事例収集と分  
析、旅行業界と連携した  
モニターチャーの企画立  
案。国内ゴルフ観光情報  
の集約、情報発信は、W  
ebサイトの運営とフェ  
イスブックの活用による  
情報共有・波及、ゴルフ  
ツーリズム・カンファレ  
ンスの実施する。調査は  
地方自治体のゴルフツー  
リズムに対する意識調査  
を行う。海外ゴルフツー  
リズム組織の交流は、國

際ゴルフツアーオペレ  
ーター協会（LAGTO）  
への加入、LAGTO主  
催のアジアゴルフツーリ  
ズムコンベンションへ参  
加する。これらの事業を  
ゴルフ場活性化、観光地  
域づくり、インバウンド、  
広報・情報発信の4つの  
委員会が中心となり進め  
ていく。

なお、同会では宿泊施  
設、鉄道、航空、レンタ  
カー、飲食、土産物店、  
自治体、観光協会など広  
く会員を募集している。  
年会費は法人会員（一般  
企業）1□10万円以上、  
法人会員（公益法人）1  
□5万円以上、自治体会  
員1□5万円以上、賛助  
会員（個人会員）1□1  
万円以上。

一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会設立準備室

# 「ゴルフツーリズムセミナー」開く

セミナー風景



## ゴルフをコンテンツに国内外交流を 富裕層マーケットの取り組みに注力

一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会設立準備室は2月13日午後3時から東京ビックサイトで「ゴルフツーリズムセミナー」を開催した。海外・国内の交流人口の拡大と富裕層マーケットの取り込み

ゴルフダイジェスト社が後援した。

2014年の訪日外国人数を目標ろうという主旨で開催したもので、約90人の関係者が参加した。なお一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構、JTB総合研究所、

は1300万人を突破した。少子高齢化が進行する中、ゴルフ場單体ではなく、地元観光事業社、自治体などが一体となり、地域観光資源の魅力による地域活性化に注力しなければならない。

日本ゴルフツーリズム推進協議会では、関連事業者・自治体への情報発信を通じて、ゴルフをコンテンツとした国内外の交流人口の拡大、地域経済の活性化につながる取り組みを行っていくために力を入れている。

ゴルフツーリズムは、ゴルフ場だけで完結するものではない。宿泊施設・交通・航空・飲食店・ショッピング・通信インフラ・自治体・地域の観光資源等、多くの産業が関連していく。そこで今回のセミナーは、ゴルフをコンテンツとした海外・国内の交流人口の拡大とが富裕層マーケットの取り込みを目標とする目的で開催された。

セミナーは主催者挨拶に続いてパネルディスカッションが行なわれた。テーマは「東京オリンピック開催で加速する日本のゴルフツーリズムの未来」。

パネリストはタイ国際航空日本地区営業部長・杉岡茂則氏、JTB総合研究所主席研究員・田嶋純一氏、株式会社カスチャリゾート代表取締役社長・白石武博氏、株式会社やまとこうる代表取締役・村山慶輔氏、コーディネーターはゴルフダイジェスト社「ゴルフ場セミナー」編集長・鈴木一也氏が務めた。

平成27年6月23日

各 位

三重県外国人観光客誘致促進協議会長  
三重県雇用経済部観光局長  
(公印省略)

みえゴルフツーリズム・インバウンドセミナー（第一回）の開催について  
平素は、三重県の国際観光振興にご尽力を賜り、御礼申しあげます。

三重県外国人観光客誘致促進協議会及び三重県では、県内に80以上のゴルフ場が立地する点を活かし、海外からゴルフトアーを誘致する「みえゴルフツーリズムによるインバウンド促進事業」（受託事業者：株式会社ゴルフダイジェスト社）を今年度からスタートさせます。

つきましては、一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会から講師を招いて、下記のとおりセミナー（第一回）を開催します。静岡県で実際にインバウンドゴルフツーリズムを実践されているギャロウェイ氏には、様々な課題や対応策について講演いただく予定です。

ゴルフツーリズムはゴルフ場に加え、県内での移動や宿泊、周辺観光も重要な構成要素となりますので、ゴルフ場関係者の皆様をはじめ、宿泊施設や交通事業者（バス、タクシー等）、観光施設、ゴルフ用品販売店の皆様など、少しでも関心をお持ちの皆様に広くご参加賜りますようお願いいたします。

#### 記

##### 1. 講演会

（1）日時：平成27年7月9日（木）14：00～16：30（※13：30～受付）

14：00～14：30 みえゴルフツーリズムの取り組みについて（三重県）

14：30～14：50 ゴルフインバウンドの現況報告

15：00～16：30 ゴルフインバウンド実践報告と質疑応答

（2）会場：三重県総合文化センター文化会館 大会議室

三重県津市一身田上津部田1234 TEL:059-233-1111

（3）講師：一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会 事務局長 南波幸一氏

「ゴルフ静岡」(<http://www.golf-shizuoka.com/>) 創始者 ベネット・ギャロウェイ氏

##### 2. 懇親会

（1）日時：平成27年7月9日（木）17：30～

（2）会場：津駅付近（決定次第、参加を希望される方にお知らせします）。

（3）懇親会参加費：1名につき4,000円（予定。当日会場で申し受けます。）

（4）その他：一般社団法人日本ゴルフツーリズム協会や講師、株式会社ゴルフダイジェスト社の方々も懇親会に参加されますので、有意義な意見交換の場としてご活用ください。

##### 3. 参加申込

（1）申込方法 別添の申込用紙により、下記事務担当までメールもしくはFAXにてお申し込みください。（領収書が必要な場合は宛先も忘れずにご記入ください）。

（2）申込期限 平成27年7月7日（火）

事務担当：三重県雇用経済部観光局

海外誘客課 鈴木 志づほ

TEL 059-224-2847



2015年7月28日～30日 「SPORTEC2015」 ブース出展



「SPORTEC」は、日本最大級のスポーツ・健康産業の総合展示会で、開催3日間で約40,000人が来場したイベント。JGTAでは、「スポーツツーリズム」エリアにブースを設置し、協会のPRを行った。

7月28日～30日 「SPORTEC2016」 ブース出展

一般社団法人静岡県ゴルフ場協会

静岡県ゴルフトーリズム・インバウンドセミナー（第一回）  
次 第

主催：静岡県、一般社団法人静岡県ゴルフ場協会

協力：公益社団法人静岡県観光協会、一般社団法人日本ゴルフトーリズム推進協会

日時：平成27年12月2日（水）13：15～16：35

会場：プラサヴェルデ402会議室（沼津市）

12：45～13：15受付

13：15開会

13：15～13：20

主催者挨拶

静岡県文化観光部部長代理 後藤淳

13：20～13：25

来賓挨拶

一般社団法人日本ゴルフトーリズム推進協会会长 白石武博  
(株式会社カヌチャベイリゾート代表取締役)

13：25～13：40

現状報告

『静岡県ゴルフトーリズムの取り組みについて』

一般社団法人静岡県ゴルフ場協会専務理事 野村茂継

13：40～14：40

基調講演

『日本のゴルフトーリズムのポテンシャルと課題点について』

一般社団法人日本ゴルフトーリズム推進協会監事 北村倫夫  
(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院客員教授)

14：40～14：55

\*\*\*休憩\*\*\*

14：55～16：10

パネルディスカッション

テーマ－静岡県のゴルフトーリズム推進に向けて－

<コーディネーター>

一般社団法人日本ゴルフトーリズム推進協会評議員 杉島宰治  
<パネラー>

国際ゴルフツアーオペレーター協会日本代表 薬師寺輝

静岡県観光協会しづおかツーリズムコーディネーターチーフ 今井利昭

サザンクロスリゾート&スパ代表取締役 北村太一

Golf Shizuoka 主宰 ベネット・ギャロウェイ

16：10～16：30

質疑応答・総括

16：30～16：35

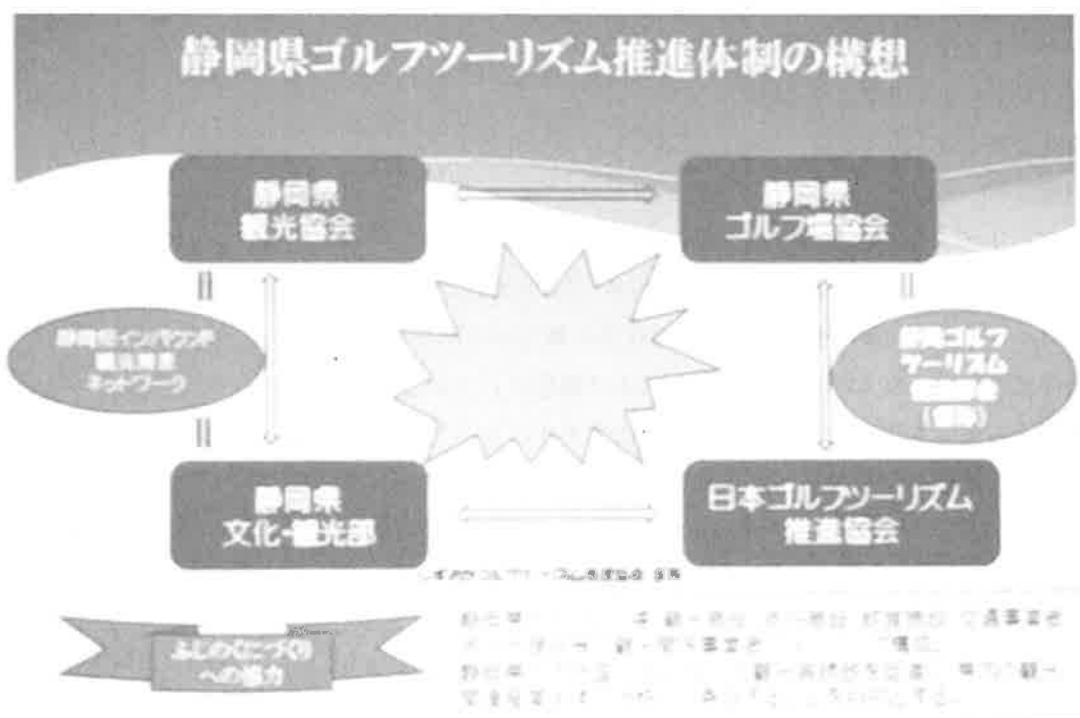
閉会の挨拶公益社団法人静岡県観光協会専務理事太田忠四郎

16：35

終了



「静岡県ゴルフツーリズム・インバウンドセミナー（第一回）」会場風景



プレゼン資料

## 2016年1月25日 第一回JGTA主催会員勉強会

実施日 2016年1月25日 13:00~15:00

オフィス東京貸し会議室 C5

### ◆南波事務局長よりご挨拶

◆小島副会長・村山理事よりご挨拶及びに協会小秋

### ◆参加者自己紹介

### ◆各自治体の動きについて（南波事務局長より説明）

・三重県が自治体として初めて JGTA に参加。現在、「みえゴルフツーリズム部会」を立ち上げ、ゴルフツーリズムへ関心のある事業者が参加している。（ゴルフ場・ホテル・観光施設・交通関連等）。販促素材を作成し、2015 年 11 月にスペイン領カナリア諸島で開催された IGTM にも県として参加し、海外のバイヤーへ PR を行った。

・三重県の活発な動きに刺激を受け、山梨総合研究所 HP でもゴルフツーリズムについての研究文書が掲載されている。

・静岡県も、2015 年 12 月にゴルフツーリズムに関するセミナーを開催し、約 100 名が参加。（主催：一般社団法人静岡県ゴルフ場協会・静岡県、後援：JGTA）

・JGTA としても、今後、自治体との連携を含め、関連団体ともつながりを構築していきたい。

・訪日外国人が過去最高となった。今後、2019 年 RWC 日本大会では、スポーツ愛好家が多数訪日→開催地となる地方都市へも人の流れが発生。→今からいかに準備していくか。

・タイのパタヤでは、20 のゴルフ場で年間 50 万人が来場し、ほとんどがインバウンドゴルファーである。三重県はこのパタヤと提携し、ヨーロッパからパタヤへの長期滞在旅行客を三重県に呼ぶ流れを目指している。

・インバウンドゴルファーを受け入れるハードルとして考えられるのが、言葉の問題（英語サイト、スタッフの対応、ゴルフ文化の違いやマナーの伝え方等）、予約方法、ゴルフ旅行のアレンジが出来る人材の不足等があり、それをいかにクリアにしていくかが課題である。

### ◆小島副会長・村山理事による対談

#### I. 小島副会長より

##### ・自己紹介

・ゴルフツーリズムは、日本のゴルフ場の再生につながる。

・オーストラリアのゴルフ場は 65%以上が海外からのゴルフ客。ローカル向けは非常に少ない。

・日本のゴルフの歴史は約 120 年。1970 年代から新しいシステムが乱立した。

・様々な情報の中で。日本のゴルフツーリズムは誤解されている

→世界各国から来てもらうはず。どこか一国に人がまとまってるものではない。

→欧米からも一定数のゴルファーが来ている 例) 廣野ゴルフクラブなど

・世界のベストランキングを全てまわりたいコアなファンが世界にはいて、彼らは日本に来たがっている。このようなゴルファーが来ている手ごたえを今年が一番手ごたえを感じていて、来日希望の気運が高まっている。

→ミラノ万博でのアンケートで、次に行きたい国第一位が日本。

・旅慣れた人が日本を目指している→2020 年以降も確かに継続していく。

#### II. 村山理事より

##### ・自己紹介：2007 年から、訪日観光に特化した事業（やまとごころ）

→B2B／人材マッチング／教育研修／コンサルティング（百貨店・SC・レンタカー・自治体等）

・JGTA 立ち上げ前より約 4 年間携わってきた。

・訪日観光が好調な背景

①為替

②ビザの緩和（クルーズ船もビザ不要）

③LCC とクルーズ船

→交通の多様化。クルーズ船利用=110万人超え（目標を5年前倒しで達成）

→LCC：地方空港に多く発着。静岡空港は10倍に。航空代を抑えて他に使う人が多数

※宿泊・航空を安く済ませる≠お金を持っていない

④アジアの経済発展

→「お金があったら何に使いたい？」のアンケートへの回答

日本→「スマートフォン」、アジア→「海外旅行」

・富裕層→ILTM アジア版：京都で過去3回、今年から東京…日本側で柔軟な対応できる人材が少ない。

・ゴルフ・スキー・ショッピングのニーズが高まっている

→爆買に飽きた人たち…→健康・趣味へ関心が変更する

・一般社団法人ショッピングツーリズム協会について

→現在150社が参加。理事企業には大手が名を連ねている。年間予算約3億円。

→政府との取組：「japan Shopping Festival」で商標登録。

→協会として、1. 海外への情報発信 2. 国内受け入れ環境整備を担っており、研修、免税セミナー、

成功事例の収集を行い、大手・中小・売店などが一緒になり活動。

・世の中の気運にのる大切さ・巻き込んでいく大切さ

→小売店だけでは難しい。商工会議所・旅行会社・交通関連含め、一体となる必要性。

→JGTAでも同様に、架け橋となっていく必要がある。

### III. 対談（※表記敬称略）

・小島：ゴルフの国内ニーズは2008年がピークとなり、以降は下降線をたどっている。インバウンドを含め、「プレーの多様化」に対応していく必要がある。国内マーケットのキャパの食い合いはやめるべき。インバウンドは特効薬となる。国内での移動も含め、ショッピングと同じ魅力があるのではないか？

・村山：インバウンドは市場へのプラスオン。新しいアクションを取るものなので、マイナスになることはない。しかし、新規事業となると二の足を踏むことが多くみられる。某県でのアンケートでは、6割が「取り組みたくない」と回答している。

・小島：地方でも、ある年代の層が特に変化を嫌う傾向がある。郡部と地方都市でも傾向は地位外。地方創生を止めさせているのは、郡部のように感じる。今まで、海外からの観察プレーなどを受け入れても、タダでプレーしただけで、送客どころか来なくなるケースが多くあった。「日本に来たい」を「日本にゴルフをしに来たい」にできるよう、協会として受け入れを強化したい。上海の会員制レストランで、顧客は10カ国位、地元の中国人は一番少なく、サービススタッフもイタリア人ばかりのところがある。日本でも東京俱乐部などでは同様な傾向がみられる。受入体制の問題については、なるべくしてなった面と誤解されいている面と両側面がある。

・村山：ネット予約なども当初は抵抗があったかと思うが、現在では当たり前になっている。その例も踏まえてゴルフトーリズムはどのように進めていけば良いか。

・小島：ネット予約も、スタート当初は、各社担当同士で交流があり、情報交換をしていた。立ち上がりの際は競合意識をもたずに、連携していくことが必要。当時は、「ネットゴルファーはまあーが悪い」などと言われていたが、現在ではネット予約が当たり前になっている。横並びではなく、名門コースもリーズナブルなコースも様々出てくるように。名門コースにも理解を得ながら、ユーザーの希望に応えられるようにしたい。

・村山：今後のポイントは3つ考えられる。①場を設けていく。②有名な所・象徴をつくる。③本気でやる人をどうつなげていくか。事例をきちんと集めていき、熱心に取り組むところに集客できるようにしていく。また、集客する際には、①時間軸②曜日軸③季節軸を意識する必要がある。時間軸では、例えば早朝に来ても楽しめるように。ドンキホーテでは、早朝及び夜10:00以降は一人勝ちの状態。曜日軸では、休館日をインバウンド客向

けとして開放してみる。季節軸では、設立セミナーの際に講演いただいた、北海道ノースカントリーの事例のように、冬場はスノーランドとして活用するなど。ゴルフ場＝ゴルフをプレーするだけではなく、商品提供の場として考えてみても良い。日本のサービスを学びたいと考える海外企業は非常に多い。日本のホテルの支配人や、サービスノウハウの輸出の中に、ゴルフ場からのノウハウの輸出も考えられるのではないか。

・小島：中国でゴルフ場建設ラッシュの際に、日本の設計士の紹介を、カート販売とセットで行ったことなどもあった。日本では、まだ地方創生への反応が弱いが、自治体は国を動かすことができる。数字だけをみた統計だけが先行して出てしまい、日本のゴルフが活気がなくなっていくように見られてしまっている。ゴルフ場で働く人・ゴルフ場をいかい元気にしていくか。台湾や韓国では、赤字経営のゴルフ場はほぼない状況。日本でも、需給のバランスを良くしていけるようにしたい。

#### IV. 参加している協会関係者からの発言

・倉田評議員：ゴルフが、スポーツではなく娯楽というイメージが強く、国からの補助が振りにくいのではないか？

・小島副会長：良質なインバウンド客をいかに受け入れていくか。今あるものの組み合わせをかえるだけでも対応できる。

・安理事：現状では、海外に積極的に告知をしていないが、インバウンド客が来ている。商工会議所・大使館・日本の駐在員への働きかけを行っている。リーマンショックと震災後に激減したが、現在は Facebook での情報発信と、ホテルコンシェルジュからの紹介で来ている状況。外国人を受け入れているゴルフ場が一目でわかるリストなどを作成すれば良いと思う。

・倉田評議員：現在、メガスポーツイベントを担当している。ラグビーワールドカップイングランド大会でも、来場者にアンケートを実施。試合時間が長いので、その間に何をするか（したいか）について、「観光・ショッピング」と並び、スポーツアクティビティを求める声が高い。ラグビーファンはステイタスのある人の割合が多く、帰国後にオピニオンリーダーとして期待できる。また、オリンピックについても、事前合宿をどうしていくか？サッカー代表チームがゴルフ場を合宿に利用した事例もある。ゴルファー以外にも壁を取り払い、観光資源として考えていく必要があるのではないか。

小島副会長：プロゴルファー・レッスンプロや、メンバーを積極的に活用していく。若手のプロはラウンド中の英語対応が可能な人も多く、また土地勘があるので観光の指南もできる。また、インバウンド客とメンバーを同伴させることで、ゴルフ場側も安心できる。

会終了後、出席者各位で名刺交換会を実施。

## 第二回 ゴルフツーリズムセミナー 式次第

開催日時 : 2016年2月19日（金）15:00～17:00

開催場所 : 東京ピックサイト会議棟 606 会議室

主催 : 一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会

15:00 開会式

15:10 インバウンドに関するゴルフ場アンケート調査結果報告

株式会社 JTB 総合研究所 コンサルティング事業部コンサルティング第三部長

一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会評議員 田部純一氏

一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会が2015年8月から10月に実施した調査結果を分析し、日本のゴルフ場のインバウンドの実情を読み解きます。

15:35 みえゴルフツーリズム部会活動事例報告

三重県雇用経済部観光局海外誘客課主幹

鈴木志づほ氏

自治体としては初めてゴルフツーリズムに特化した予算を編成し、各種販促物の制作や世界最大のゴルフツーリズム商談会であるIGTM（国際ゴルフトラベルマーケット）へ出展するなど、その先進的な試みをご報告いただきます。

16:05 休憩

16:10 パネルディスカッション「自治体と連携したゴルフツーリズムの促進」

ゴルフツーリズムの発展において、各ゴルフ場単体の動きだけではなく、自治体の積極的な姿勢や協力が必要となります。ゴルフツーリズムに注目して活動している自治体との連携について、北海道・三重県・沖縄県での事例についてご報告いただき、議論してまいります。

（パネリスト・コーディネーターのプロフィールは裏面にございます）

17:00 閉会の挨拶

## 【パネリスト（50音順）】

### ◆池宮 一氏◆

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

企画部企画課スポーツチームマネージャー（専門員）

平成26年度より、沖縄県における「スポーツ観光誘客促進事業」の実施に従事。沖縄の優位性が際立つ種目と環境を内外に紹介し、スポーツ観光誘客に向けた認知度向上を図るプロモーションをサポートしている。

当該事業では、沖縄が優位とされる「ゴルフ」「マラソン」「サイクリング」の種目に重点を置き愛好家に向けてPRしており、ゴルフトーリズム誘客にむけては昨年「ジャパンゴルフフェア」初出展、「ファムツアーア」を実施。今年度は、沖縄県内のゴルフ場関係者との意見交換を経て受け入れ施設とのネットワークを構築、相互の協力によりジャパンゴルフフェアにおける出展を計画している。

### ◆岩谷 和彦氏◆

白山開発株式会社 ホテル部支配人兼海外事業部部長

みえゴルフトーリズム部会 部会長

1957年 大阪市生まれ

1989年 白山開発株式会社（ココパリゾートクラブ）入社

2005年2月 中部国際空港開港にあたり、当時ゴルフ＆ホテル集客対策として課題であった冬季・平日の集客増と将来のゴルフ人口減少を見据えてインバウンドへの取り組みを開始。韓国からの集客活動は、約2年で軌道に乗る。

2007年より、韓国での経験を踏まえて、台湾からの集客開始・約6ヶ月で軌道に乗る。

2014より、香港からの集客開始とともに、中国等からの観光ツアーやの受け入れも開始。

#### 【現在のインバウンド受け入れ状況】

・年間実績 延べゴルフプレーヤー 22,000名 宿泊 26,000名

内訳：ゴルフ・・・韓国80%、台湾15%、香港・中国5%

宿泊・・・韓国60%、台湾17%、香港7%、中国16%

### ◆遠藤 正氏◆

北海道大学観光学高等研究センター客員准教授

1967年北海道札幌生まれ。

2000年代前半の北海道ニセコ地域の外国人スキー観光客増加の研究をきっかけに、北海道とスポーツ、および観光の切り口で研究活動を実践している。

ゴルフトーリズムでは2010年スペインで開催されたIGTM（国際ゴルフ観光商談会）に、北海道ゴルフ観光協会に帯同し、学の立場から、北海道のゴルフトーリズムの支援を行なった。

以後、同協会と連携し、アジアのゴルフ観光商談会であるAGTC出展への助言、海外ゴルフ旅行関係者の北海道へのファムトリップへの支援等、北海道の地域活性化をゴルフトーリズムと産学連携の視座で推進している。

## 【コーディネーター】

### ◆北村 優夫◆

株式会社 野村総合研究所 社会システムコンサルティング部担当部長

一般社団法人日本ゴルフトーリズム推進協会 監事

## 【セミナー風景】

- ・田部評議員による「インバウンドに関するゴルフ場アンケート調査結果報告」



- ・パネルディスカッション



## みえゴルフツーリズムの取組経緯

MIE  
Golf Travel Destinations

	三重県	みえゴルフツーリズム部会
平成26年 7月	●御会議スタート 各関係者への根回し ゴルフ場への意向調査(ヒアリング)	
10月～	●次年度予算編成スタート  <b>地方創生交付金</b>	
平成27年 5月	●企画提案コンペ・第一次受託者決定 (パンフ作成、セミナー、商説会出展等)	
6月		
7月	<b>伊勢志摩サミット開催決定</b>	●「みえゴルフツーリズム促進部会」新設(7月6日)  <b>第一回インバウンドセミナー(7月9日)</b>
9月		●香港 メディア & AGTファム(3社)(9月5日～6日)  <b>第一回御会開催(9月16日)</b>
10月	●PR用パンフレット・映像・Web完成  <b>JGTM2015出展</b>	
		●合属・韓国メディアファム(1社)(10月28日～29日)
11月	●知事挨拶  <b>韓国 プロモーション(釜山・ソウル)</b>	
	<b>地方創生上乗せ交付</b>	<b>映像作成事業</b>
12月	●企画提案コンペ・第一次受託者決定 (欧州ファムトリップ、ゴルフイベント)	●香港 AGTファム(1社)  <b>第二回御会開催(12月4日)</b>
		●合属 AGTファム(1社)(12月13日、15日) ●韓国 AGTファム(7社)(12月17日～20日) ●韓国 AGTファム(1社)(12月18日～20日)
平成28年 1月	<b>地方創生加速化交付</b>	●韓国 AGTファム(25社)(1月8日～10日) ●韓国 AGTファム(19社)(1月16日～18日)  <b>香港・深圳・合属プロモーション(1月20日～24日)</b>
2月	●EGA招請(1月31日～2月5日) ●MDU調印(2月2日)	
		<b>第三回インバウンドセミナー(2月3日)</b>
		●韓国 AGTファム(7社)(2月24日～26日)
3月	<b>タイ・パタヤ プロモーション(2月28日～3月4日)</b>	
	●欧州ゴルフツアーオペレーター招請 ●中国アマチュアゴルフ大会決勝ラウンド誘致 ●欧州ゴルフメディア招請	<b>県事業招請者との交流会</b>
	●次年度ゴルフ事業企画提案コンペ(告示)	

# インバウンドゴルファー受入体制 アンケート調査結果

田部 純一 日本ゴルフツーリズム協会 評議員  
JTB総合研究所 主席研究員

2016年2月19日

## 調査概要

■ アンケート実施：一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会

■ 実施時期：2015年10月

■ 調査対象：全国ゴルフ場1750施設（有効回答288施設）

■ 地域別回答数：

北海道	21
東北	13
関東	74
甲信越	15
中部	61
北陸	4
関西	35
中国	25
四国	4
九州	36
合計	288

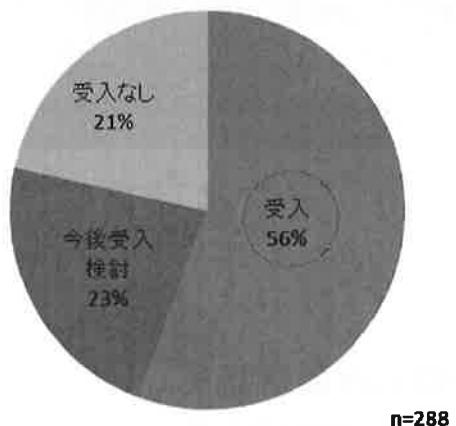
■ 集計方法：集計は全体の割合を示す場合は回答者数288をベースとしている。インバウンドゴルファーの受入実績のある施設、地域別に集計をした場合は、無回答を除く有効回答をベースとしている。

■ 表記： 各グラフ・表の表題に「受入実績あり」と表記しているものは、インバウンドゴルファーの受入実績のある施設を対象として回答結果を集計している。また、地域別の数値は、サンプル数が少ない地域があるため、%ではなく、件数で掲載している。

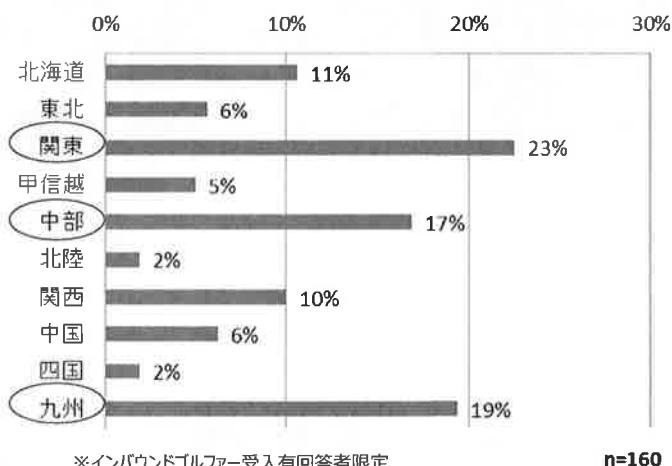


## インバウンドゴルファーの受入実績があるゴルフ場は56%と半数以上 地域別でみると、関東、九州、中部が多い傾向

インバウンドゴルファー受入実績



地域別インバウンドゴルファー受入実績



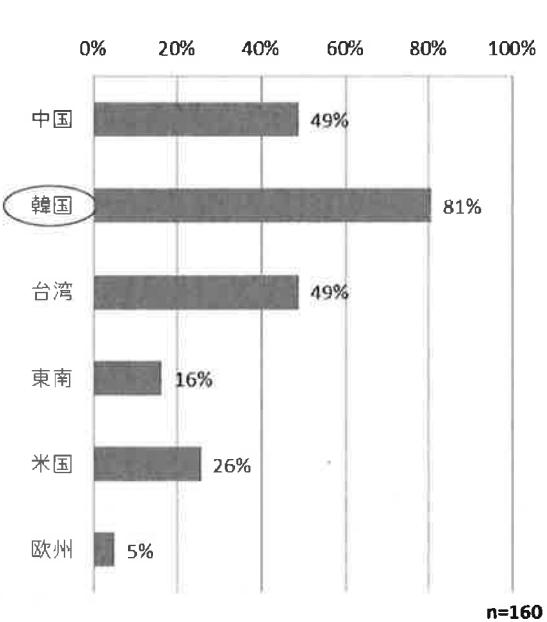
(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

2



韓国からのインバウンドゴルファーの受入経験があるゴルフ場が81%  
九州ではほとんどのゴルフ場で韓国からの受入実績がある  
北海道は東南アジアが他エリアより多い

インバウンドゴルファー居住国 (受入実績有)



地域別インバウンドゴルファー受入実績 (受入実績有)  
(件)

	居住国					
	中国	韓国	台湾	東南	米国	歐州
北海道(n=17)	9	13	11	6	2	0
東北(n=9)	2	9	2	1	1	2
関東(n=34)	17	25	12	6	16	1
甲信越(n=6)	3	4	4	0	4	0
中部(n=27)	15	21	17	5	6	3
北陸(n=3)	1	3	2	0	0	0
関西(n=16)	9	14	6	2	2	2
中国(n=10)	3	8	3	1	4	0
四国(n=3)	1	2	2	0	0	0
九州(n=31)	17	30	19	4	6	0

地域別インバウンドゴルファーの居住国割合 (受入実績有)  
※回答サンプルが10以上のエリアのみ

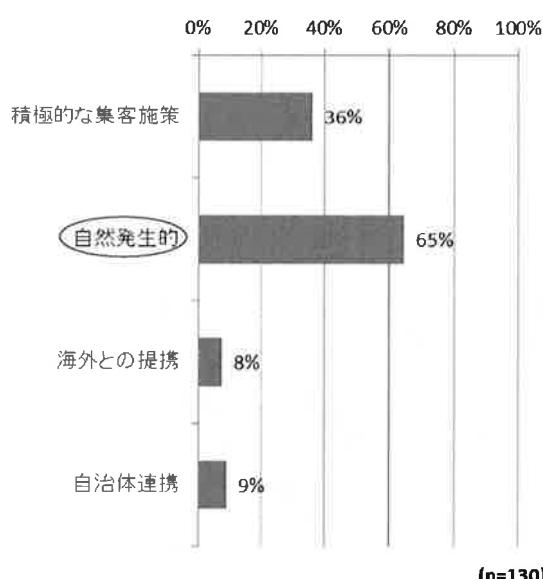
	居住国						合計
	中国	韓国	台湾	東南	米国	歐州	
北海道(n=17)	53%	76%	65%	35%	12%	0%	100%
関東(n=34)	50%	74%	35%	18%	47%	3%	100%
中部(n=27)	56%	78%	63%	19%	22%	11%	100%
関西(n=16)	56%	88%	38%	13%	13%	13%	100%
中国(n=10)	30%	80%	30%	10%	40%	0%	100%
九州(n=31)	55%	97%	61%	13%	19%	0%	100%

(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

3

インバウンドゴルファーの受入実績のあるゴルフ場の受入は自然発生が中心  
地域別では関東・中部・九州では自然発生的な受入が多く、  
関東では積極的な集客施策を行っているゴルフ場もある

#### インバウンドゴルファーの受入目的 (受入実績有)



#### 地域別インバウンドゴルファーの受入目的 (受入実績有)

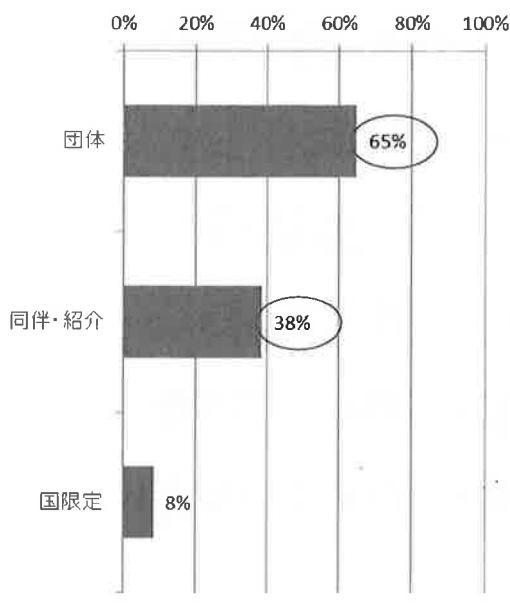
	積極的な集客施策	自然発生的	海外との提携	自治体連携
北海道(n=16)	9	4	2	3
東北(n=7)	2	4	0	2
関東(n=32)	10	26	2	3
甲信越(n=4)	1	3	0	0
中部(n=25)	8	17	3	1
北陸(n=2)	1	0	0	1
関西(n=12)	4	9	0	0
中国(n=7)	4	3	0	1
四国(n=3)	1	3	0	1
九州(n=22)	7	15	3	0

(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

4

インバウンドゴルファーをツアーとして団体客を受入れているゴルフ場は65%  
会員の同伴・紹介を必要としているゴルフ場は4割弱

#### インバウンドゴルファーの受入方針 (受入実績有)



#### 地域別インバウンドゴルファーの受入方針 (受入実績有)

	団体	同伴・紹介	国限定
北海道(n=17)	12	5	1
東北(n=8)	4	3	1
関東(n=25)	15	12	1
甲信越(n=4)	2	3	1
中部(n=23)	15	8	1
北陸(n=3)	3	0	0
関西(n=14)	10	5	0
中国(n=8)	3	3	2
四国(n=3)	2	2	1
九州(n=25)	18	9	3

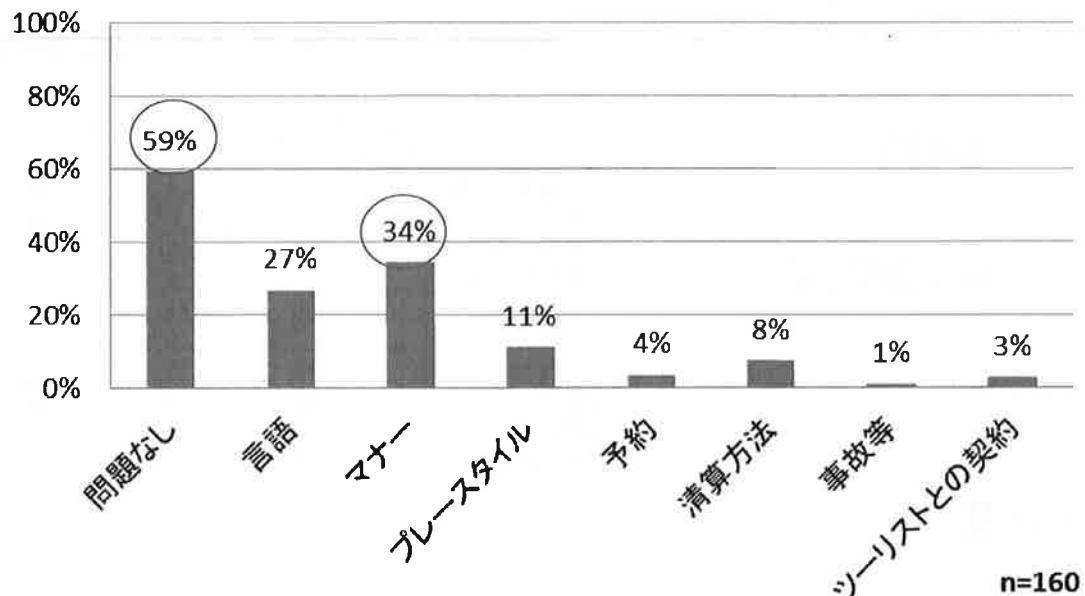
(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

5



## インバウンドゴルファー受入時の問題点は6割が問題なしと回答 ～課題はマナー問題

インバウンドゴルファー受入時の問題点 (受入実績有)



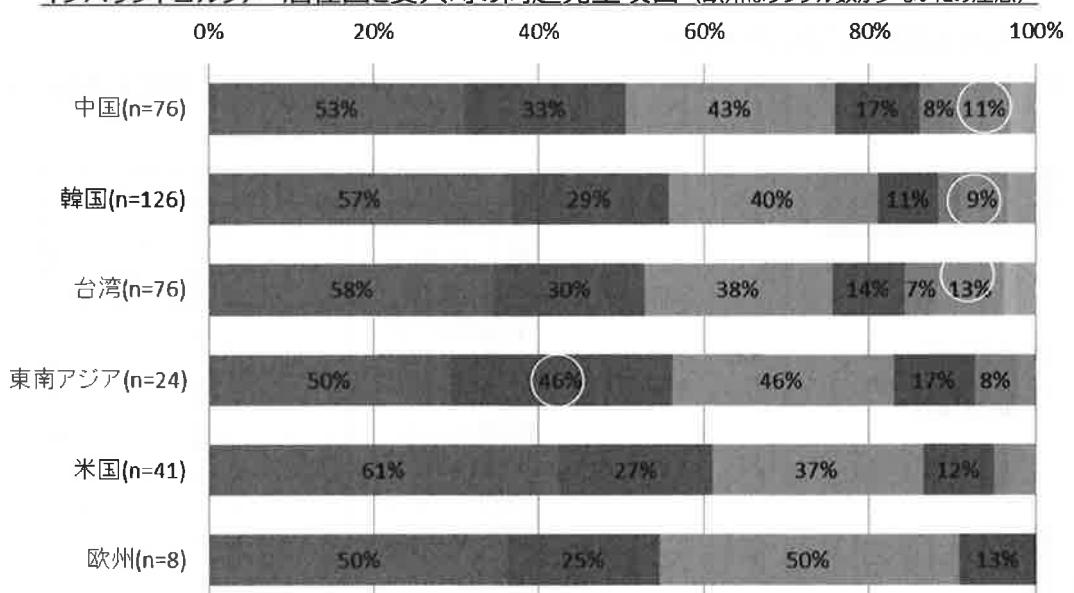
(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

6



## インバウンドゴルファーの問題発生点はいずれのエリアもマナー 特に「東アジア」からのゴルファーは清算方法 「東南アジア」からのゴルファーは言葉の問題

インバウンドゴルファー居住国と受入時の問題発生項目 (欧州はサンプル数が少ないため注意)



※インバウンドゴルファー受入有回答者限定

■問題なし ■言語 ■マナー ■プレースタイル ■予約 ■清算方法 ■事故等 ■ツーリストとの契約

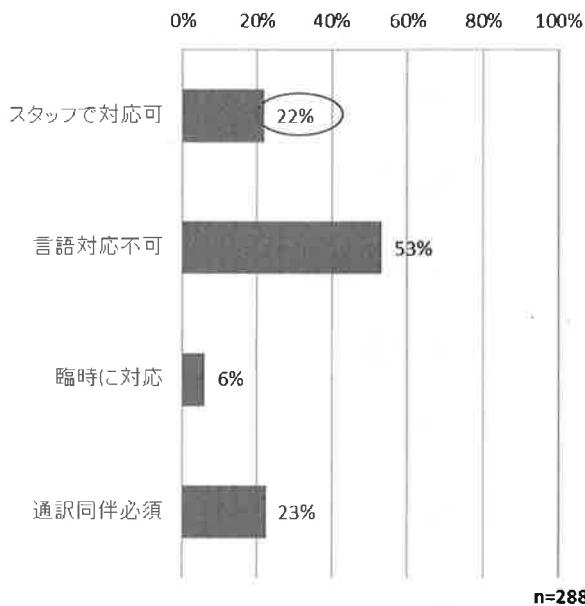
※インバウンドゴルファーの居住国と問題発生有無について国別ではなくそれぞれ全体で回答しているため、集計方法は当該国と回答した人と問題発生項目を集計。そのため、複数の居住国を挙げている場合は、問題項目が複数の国すべてで算出されている点に注意が必要。

(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成 7

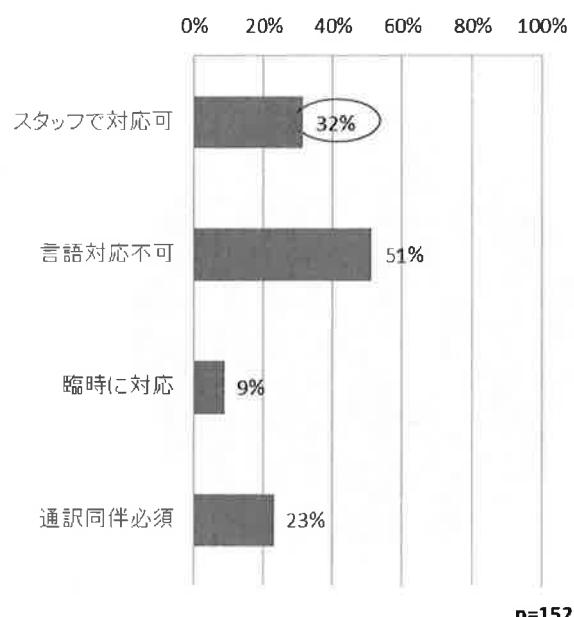


## ゴルフ場のスタッフで言語対応を行っているのは2割程度 インバウンドゴルファーの受入実績のあるゴルフ場に限ると3割を超える

ゴルフ場における多言語対応



ゴルフ場における多言語対応 (受入実績有)

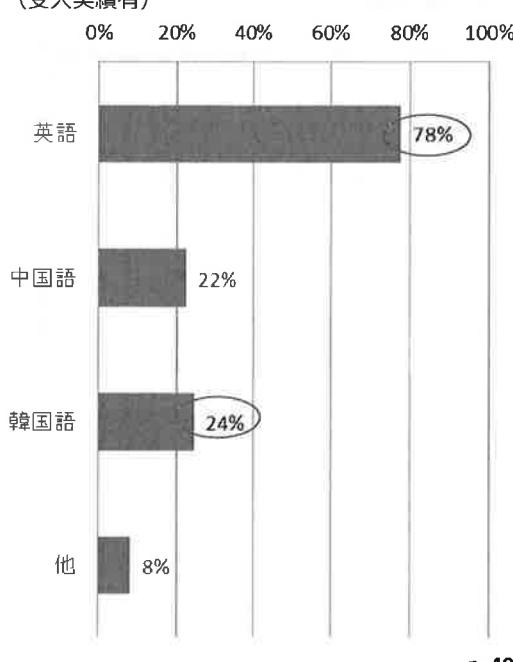


(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成



## インバウンドゴルファーの受入実績のあるゴルフ場で 対応可能な言語は「英語」が8割程度 マーケットの大きい「韓国語」の対応ができるゴルフ場は少ない

スタッフで多言語対応可能なゴルフ場の対応言語  
(受入実績有)



地域別多言語対応の状況 (受入実績有)

	スタッフで 対応可	言語対応 不可	臨時に対応	通訳同伴 必須
北海道(n=14)	6	6	1	2
東北(n=8)	4	4	1	3
関東(n=34)	15	18	3	2
甲信越(n=8)	1	5	0	2
中部(n=26)	7	16	0	6
北陸(n=3)	2	1	1	0
関西(n=16)	7	3	2	4
中国(n=9)	1	6	0	5
四国(n=3)	1	2	0	1
九州(n=31)	4	17	5	10

地域別スタッフで多言語対応可能なゴルフ場対応言語  
(受入実績有)

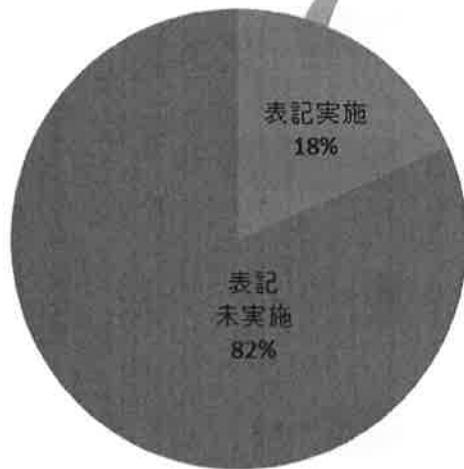
	英語	中国語	韓国語	他
北海道(n=7)	4	1	2	1
東北(n=4)	4	0	0	0
関東(n=15)	11	3	3	2
甲信越(n=1)	0	1	0	0
中部(n=7)	5	4	2	0
北陸(n=2)	1	0	1	1
関西(n=7)	7	2	3	0
中国(n=1)	1	0	0	0
四国(n=1)	1	0	1	0
九州(n=49)	4	0	0	0

(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成



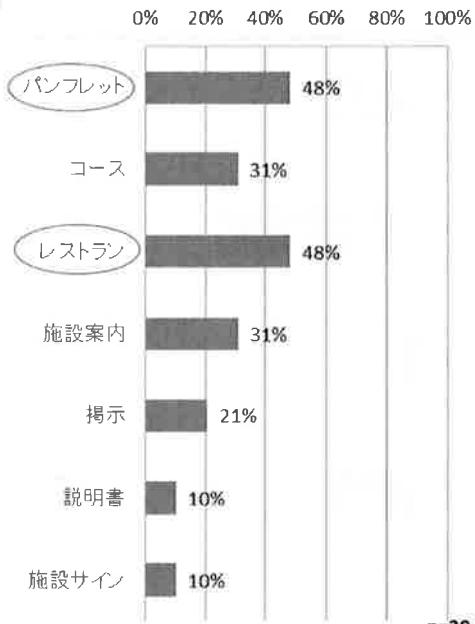
インバウンドゴルファーの受入実績の8割以上は多言語表記が未整備。  
主にレストラン、パンフレットの多言語表記が中心。

ゴルフ場における多言語対応表記（受入実績有）



n=158

多言語表記に対応している項目  
(受入実績有)



n=29

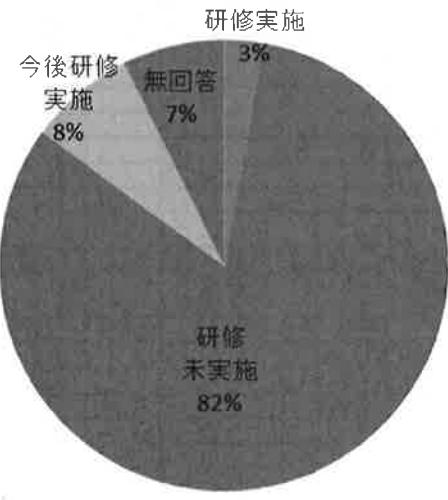
※受入実績がないゴルフ場では多言語表記を実施しているゴルフ場はなし

(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成 10



インバウンドゴルファー受入に対する「従業員研修」  
実施・今後実施予定しているのは1割程度  
既に受入の実績があるゴルフ場のみに限られる

インバウンドゴルファー受入に対する  
従業員教育実施状況



n=288

地域別従業員教育状況（受入実績有）

(件)

	研修実施	研修未実施	今後研修実施
北海道(n=16)	1	14	1
東北(n=8)	1	6	1
関東(n=35)	3	29	4
甲信越(n=8)	0	8	0
中部(n=27)	0	26	1
北陸(n=3)	0	2	1
関西(n=16)	0	15	1
中国(n=10)	0	10	0
四国(n=2)	1	1	0
九州(n=30)	1	26	3

※受入実績なしのゴルフ場は研修実施、今後実施を予定している箇所はなし。受入を検討しているゴルフ場では実施しているゴルフ場はなし。今後検討が1カ所。

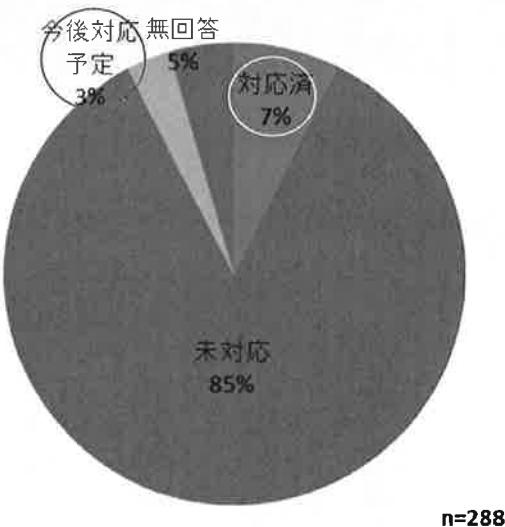
(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

11

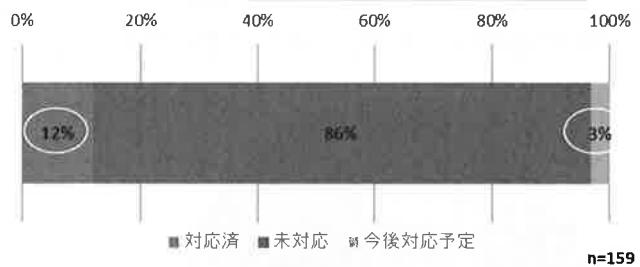


WEBサイトの外国語対応を行っているのは、  
今後対応予定の施設を含めて1割  
インバウンドゴルファー受入実績のあるゴルフ場に限っても1割程度(15%)

WEBサイトの外国語対応の状況



WEBサイトの外国語対応の状況 (受入実績有)



地域別WEBサイトの外国語対応の状況 (受入実績有)  
(件)

	対応済	未対応	今後対応予定
北海道(n=16)	6	10	0
東北(n=9)	1	8	0
関東(n=36)	2	32	3
甲信越(n=8)	0	8	0
中部(n=27)	3	23	1
北陸(n=3)	1	2	0
関西(n=16)	1	15	0
中国(n=10)	0	10	0
四国(n=3)	0	3	0
九州(n=31)	5	25	1

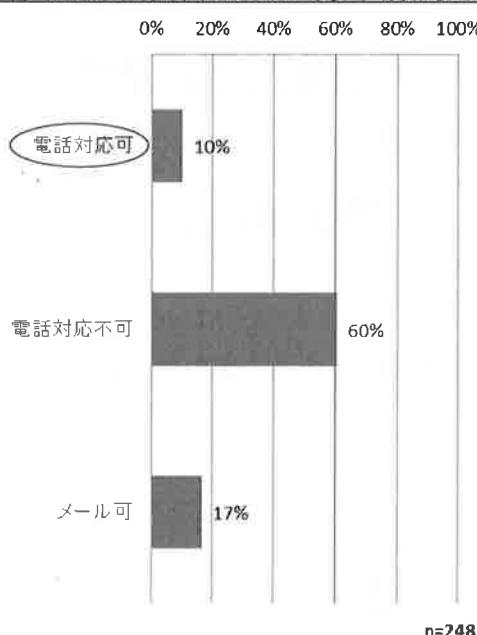
(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

12

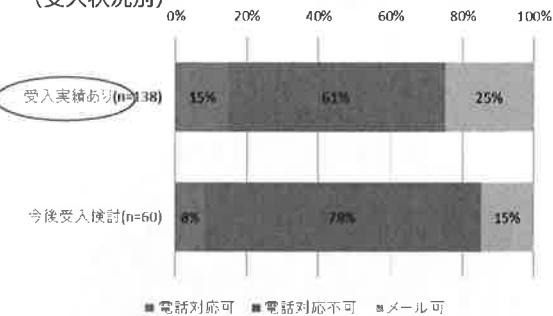


外国人からの問い合わせで電話対応が可能なのは1割  
受入実績があるゴルフ場では4割が電話・メールでの問い合わせ対応が可能

外国人からの問合せにおける多言語対応状況



外国人からの問合せにおける多言語対応状況  
(受入状況別)



外国人からの問合せにおける多言語対応状況  
(受入実績有)  
(件)

	電話対応可	電話対応不可	メール可
北海道(n=16)	4	6	7
東北(n=8)	3	4	1
関東(n=33)	5	24	5
甲信越(n=7)	0	5	2
中部(n=24)	1	17	6
北陸(n=3)	0	2	1
関西(n=13)	2	6	5
中国(n=7)	2	4	1
四国(n=3)	1	2	0
九州(n=24)	3	14	7

(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

\*上記は全回答における各項目の割合である。

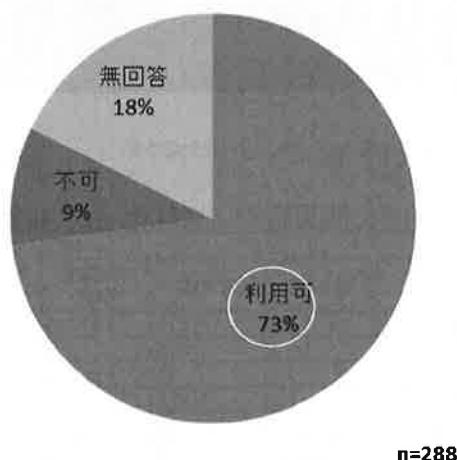
今後受入検討のゴルフ場の電話対応が不可の割合の方が高いが、これは当該セグメントに該当するゴルフ場は全体と比較して対応ができていないということを意味するものではない。

13



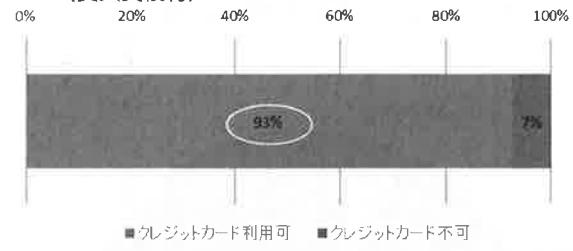
## 7割以上がクレジットカードによる料金精算に対応 インバウンドゴルファーの受入実績のあるゴルフ場では9割以上が対応

### 料金精算時のクレジットカードの対応状況



※受領書の多言語対応を行っているゴルフ場は7カ所  
(英語: 7カ所・韓国語: 1カ所)

### 料金精算時のクレジットカードの対応状況 (受入実績有)



### 地域別料金精算時のクレジットカードの対応状況 (受入実績有)

	クレジットカード利用可	クレジットカード不可
北海道(n=15)	14	1
東北(n=6)	4	2
関東(n=34)	34	0
甲信越(n=8)	8	0
中部(n=25)	22	3
北陸(n=3)	3	0
関西(n=15)	14	1
中国(n=10)	8	2
四国(n=3)	3	0
九州(n=29)	27	2

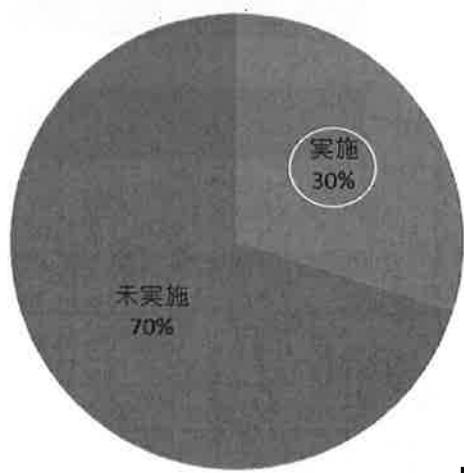
(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

14



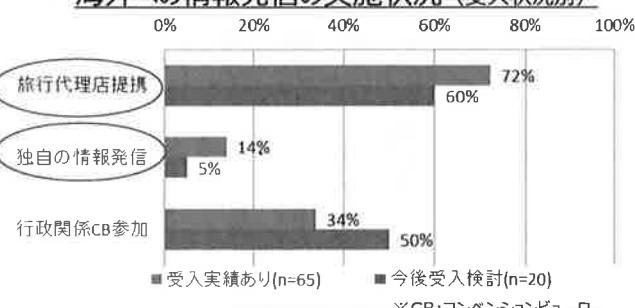
## 海外へ発信しているゴルフ場は3割 受入実績のあるゴルフ場の発信方法として「旅行代理店契約」が7割程度、 「独自に情報発信」しているのは1割強

### 海外への情報発信の実施状況



※受入実績なしで海外への情報発信を実施しているのは1カ所  
(独自の情報発信)のみ

### 海外への情報発信の実施状況 (受入状況別)



### 地域別海外への情報発信の実施状況 (受入実績有)

	旅行代理店提携	独自の情報発信	行政関係CB参加
北海道(n=13)	10	1	3
東北(n=2)	2	1	1
関東(n=11)	5	3	4
甲信越(n=3)	2	0	2
中部(n=11)	7	1	8
北陸(n=3)	2	0	1
関西(n=6)	5	1	0
中国(n=4)	3	1	1
四国(n=1)	1	0	1
九州(n=11)	10	1	1

(資料) アンケート調査結果をもとにJTB総合研究所作成

15



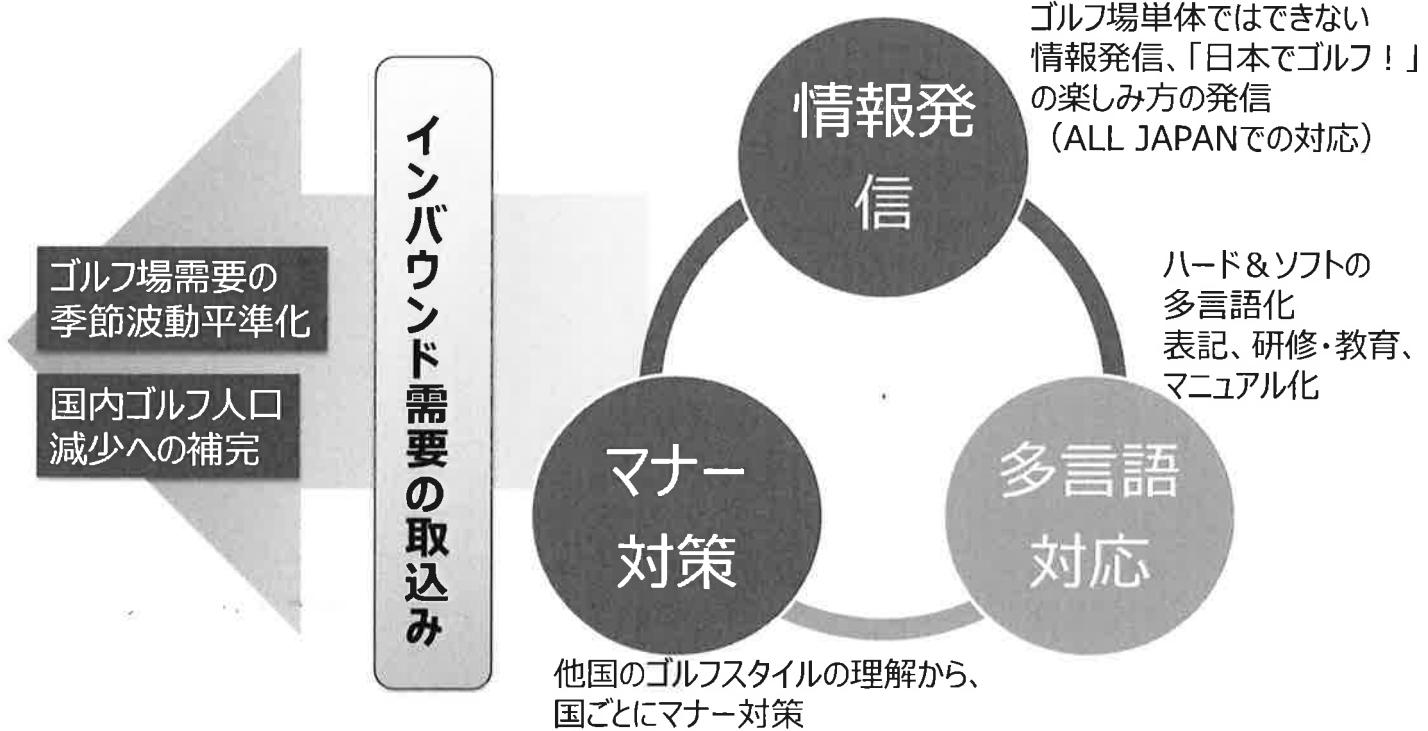
## インバウンドゴルファー受入体制アンケート調査結果サマリー

- インバウンドゴルファーの受入実績のあるゴルフ場は半数以上（回答者ベース：以下同じ）ある。関東・九州・中部エリアのゴルフ場が多い傾向。受入のあるインバウンドゴルファーは韓国が多い。
- 自然発的にインバウンドゴルファーを受入れている状況が多い。ゴルフトゥアーの団体も受け入れている施設が多く、会員の同伴や紹介を求める施設は4割弱。
- インバウンドゴルファーの受入では半数以上が問題がない状況だが、問題点として指摘が多いのはマナー。
- 外国語対応を不可としている施設が半数以上あり、スタッフで対応できているのは2割強で、通訳同伴を必須としているゴルフ場も2割強。スタッフで対応できているゴルフ場は英語対応が多くなっており、マーケットの大きい韓国語対応ができているのは受入実績のある施設の4分の1程度。
- 施設内の多言語表記を行っているのは1割で、そのうちレストラン、パンフレットの多言語表記の対応が半数程度。インバウンドゴルファーの受入実績を持つ施設でも8割強は、多言語表記が未整備の状況。WEBサイトの多言語化を行っているのは1割未満であり、受入実績を持つ施設でも1割強にとどまる。
- 外国人からの問い合わせで電話対応が可能なのは1割、メール対応が可能なのは2割弱。受入実績のある施設では4割が電話・メールでの問い合わせ対応が可能となっている。
- 海外へ発信している施設は3割で、旅行代理店提携が多い。受入実績のある施設のうち独自に情報発信をしている施設は1割強。

16

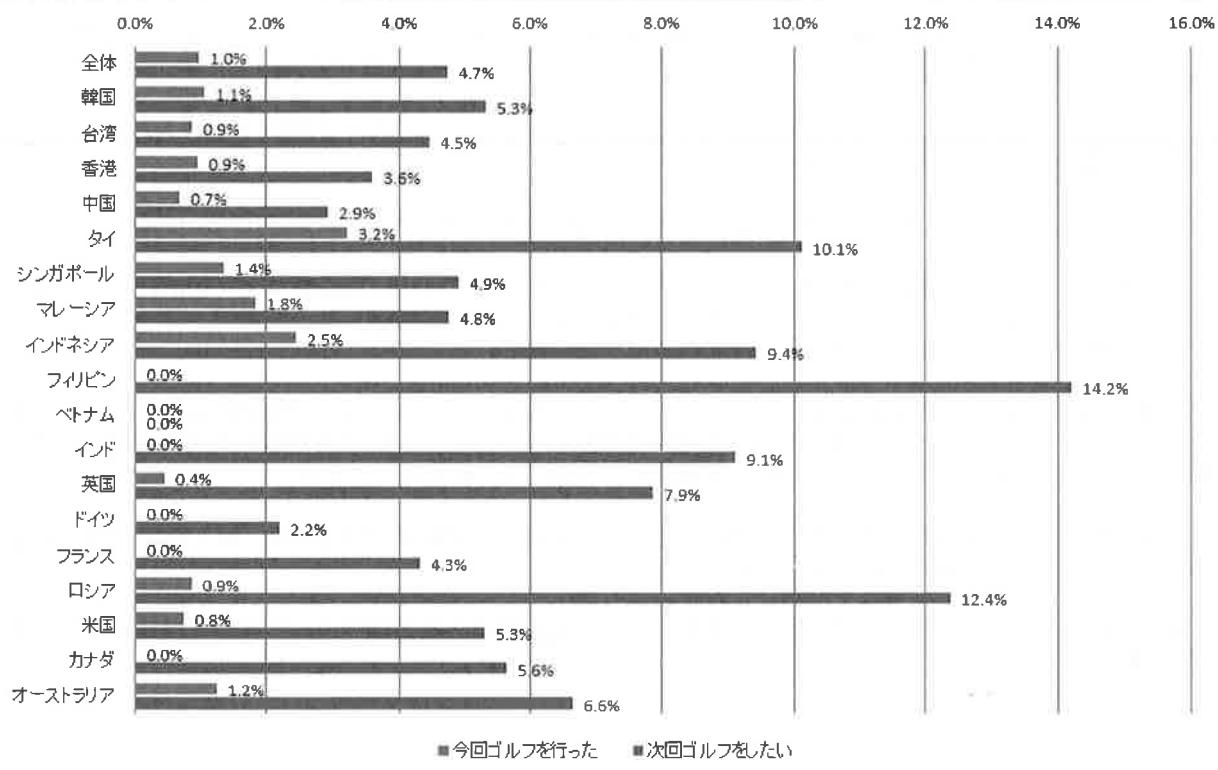


## インバウンドゴルファー受入体制 今後の課題と提言





## 最後に…訪日観光目的客のゴルフ意向 ～ ゴルフ実施率（今回） / ゴルフ希望率（次回）～



■今回ゴルフを行った ■次回ゴルフをしたい

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」2014年よりJTB総合研究所作成 18